

川崎市国際交流協会会長賞受賞作品

「拝啓、ダ・ヴィンチ様」

下平間小学校 6年生 福永 伊智子

「大いなる苦悩なくしては、如何なる完成せる才能もあり得ない。」

これは、有名なレオナルド・ダ・ヴィンチの名言である。私が最も尊敬する天才だ。有名なモナ・リザ等の絵画だけでなく、建築、解剖学、物理学等、あらゆる分野に精通し、「万能の天才」と呼ばれていた。

私の夢はピアニスト兼医師になることだ。幼少期に何度も肺炎になり、入退院を繰り返した。一年に七回も罹患し、半年以上幼稚園に通えなかったこともある。柵の高いベッドで点滴に繋がれ、面会時間にしか会えない両親に「捨てられた」と思う程辛かった。

そんな中、鮮明に覚えているのは、担当の先生がとても親身になって心配してくれた事だ。不安で眠れない時は手を握ってくれた。退院を知らせに来てくれた時は、ハイタッチをして一緒に喜んでくれた。私は思わず、「先生のようなお医者さんになりたい！！」と言うと、先生は、

「いつか一緒に仕事が出来るといいね。楽しみに待ってるよ。」

と、言ってくれた。先生に自分の思いを伝える事は少し照れくさかったが、先生の優しい言葉が嬉しくて、「医師になりたい」と、初めて意識した。病気を治すだけでなく、将来の夢を持つきっかけを与えてくれた。

一方、ピアノを弾く事は、私にとって常に挑戦だ。幼い頃から通っている音楽教室で、最初は、動物の鳴き声に合わせてピアノを叩くだけだったが、段々と、練習時間も長くなり、レッスンでは高度な技術を求められるようになった。お陰で、今はそれなりの曲が弾けるようになった。進歩する度に、色々な人から褒めてもらえる事も励みになっている。コンクール直後に、知らない先生に肩を掴まれ、

「絶対に音楽の道に進みなさい！！」

と、言われた時は、驚いたと同時に心が高揚した。毎日欠かさず練習してきたことが、少しずつ自己肯定感を高くし、自信に繋がってきた気がする。

出逢った人にも恵まれている。数年前、ピアニストの中村絃子先生に偶然出会い、

「沢山練習なさい。沢山、沢山よ・・・」

と、言葉を掛けてもらった。今指導して下さっている先生も、一度だけの予定だったレッスンが、今では週二～三回になっている。母には、

「そんなに通う必要があるの？」

と、何度も聞かれるが、私は、

「絶対にある！！」

と、いつも断言する。先生に叱られることも沢山あるが、毎回新しい発見があつて

面白い。

ピアニスト兼医師になれば、更に叶えたい夢がある。院内コンサートを開くことだ。

「音楽には、人を癒す力があるのか？」と、疑問に思ったこともあるが、聞いているうちに、歌詞が心に響く事があれば、心地良く聞ける曲があることも知った。

実際に、ピアニスト兼医師として活動している上杉春雄先生は、パーキンソン病の患者さんに、

「この数年間、病気のことで頭が一杯でしたが、先生のピアノを聞いたこの三十分だけは、病気のことを忘れることが出来ました。」

と、涙ながらに言われたそう。私も後ろ向きな気持ちになっている患者さんの心を癒やせるような演奏をしたい。その為に色んな経験をし、緻密に勉強し、苦悩すべきなのかもしれない。

ダ・ヴィンチは常に苦悩していた。「観察、注目、考察することは、常に役に立つ」と、ノートのあちらこちらに書いていた。きっと彼のような天才でも、意欲を失いそうになった時、自分を鼓舞する為に、あちらこちらに書いていたのだろう。才能があったとしても、苦悩なしでは達成出来ないのだと、ダ・ヴィンチから学んだ。

私は母に、

「凡人なのだから・・・。凡人が天才に勝る方法は努力の継続しかないのよ。」

と、よく言われる。耳が痛い、本当にその通りで、天才のダ・ヴィンチが自分を奮い立たせて乗り越えていたのに、凡人の私が努力しないでどうするんだ・・・と、いつも自分に言い聞かせている。

ダ・ヴィンチのような天才になるのは難しいだろうが、彼を見習って、好奇心と探究心を忘れずに、一つ一つ目標を達成する為に、突き進んでいきたい。